

スポーツ実技(テニス)		実習	教授 大森 肇	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目、スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救命救急士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322107 11531105 12220109 12531105 13220113 13531105	

1. 授業のねらい・概要

本授業は、スポーツ文化としてのテニスを生涯にわたって楽しむための基礎づくりをねらいとしている。そのために、1) テニスの用具、施設・設備、技術、関連体力、ルール、マナー、戦術などの基礎知識を学び、2) テニスを実践し、3) 学修の成果について考察することが求められる。

2. 授業の進め方

基礎的な技術の理解と反復練習により段階的にレベルを上げ、ゲームへと発展させながらルール・マナーも身につける。

3. 授業計画

1. 知識(コート、ラケット、グリップ)、ラケットワーク 2. フォアストローク(素振り、ショートラリー) 3. フォア&バックストローク(素振り、ショートラリー) 4. フォア&バックストロークを用いたロングラリー 5. シングルスゲーム導入(初級: ショート, 中級: 半面) 6. フォアボレー導入(キャッチ, 手の平ボレー, 短く持つてボレー) 7. フォア&バックボレー(交互にボレー, ボレー&ボレー) 8. サービス導入(キャッチボール, 素振り, ヒット)	9. スマッシュ導入(素振り, ヒット) 10. ダブルスゲーム導入(ルール, 進行, マナー) 11. ダブルスゲーム導入(戦術) 12. ダブルスゲーム(班別対抗戦1) 13. ダブルスゲーム(班別対抗戦2) 14. ダブルスゲーム(班別対抗戦3) 15. ダブルスゲーム(班別対抗戦4)
---	--

4. 準備学修に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

本授業の内容を修得するためには段階的な積み重ねが大事である。授業後、当日中に授業内容を知識・実践・考察の観点で整理しておくこと。この事後学修には1時間程度が必要である。それが次回に向けての準備学修になる。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の授業自体が発展的課題となっている。課題に対する成果について、授業内で全体的・個別的にフィードバックする。

6. 授業における学修の到達目標

1) テニスの用具、施設・設備、技術、体力、ルール、マナー、戦術などの基礎知識を学び、2) テニス実践を通して上達し、3) 学修の成果について考察することを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

意欲・態度(30%)、知識・理解(30%)、技術(40%)を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

必要に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

運動に適した服装とテニスシューズかそれに準ずる靴を用意する。コート面数の関係で受講人数の調整をする場合がある。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

日本テニス協会の1級公認指導員の資格を持ち、多数の民間テニスクールでの指導経験を有する教員がそのキャリアを活かして授業を実施する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。